

【ねがいはましては】

平成30年8月25日

KYOWA SCHOOL

第334号

「助け合いたい」

今年のキャンプ、初めての5泊6日と、例年より1日増やしての実施となりました。おそらく参加者皆が感じているのが、「これで・・・」と思うくらいにあっという間の6日間であったと思います。

このキャンプ、始まったのが35年以上も前のこと、そしてお世話になっているキャンプ場も全く変更することもなく今に至っています。ですからオーナーさんや奥さん、そしてそのお子さんたちもそれなりに年を重ねてきました。

大きく変わったこと、私も含めて見た目がずいぶんと変わったこと（老けたー）と、もうひとつ、気温です。

お世話になり始めたころは、夜間、雨でも降ろうものなら、寒くて寒くて、トレーナーの上にウインドブレーカーを着て、さらに靴下をはいて、それでも寒くて「く」の字に折れ曲がり、膝を抱えて寝ていたことです。それくらいに気温の変化は大きくなっています。この夏は、裸足で上下トレーナーで充分にあたたかく、それでも長袖ですが、毛布1枚で充分でした。もちろん靴下などとは無縁です。

虫も全くと言っていいくらいにいないのです。明かりをつければとたんに集まってくる蛾やその他の虫たちもたまーにくらいです。

キャンプを始めたころは、恩師に雇われていたので、他団体に漏れず期間中の計画があり、それに則って実行されていました。ハイキング、花火大会、食事はこちらで用意、などなど、他がおこなっている「それ」と、同様のものでした。そして独立、私が私の教室の子だけを連れて行くようになってから、変化をつけました。

「勝手に生きる」です。常日頃、準備された計画された生活（学校）を送っている子どもたちに、とにかく食事から、寝る時間から、起きる時間まで、そして日中どのように生活するかまで自由に生きてごらんというスタンスに変えました。5～6人に分かれた班ごとに、夕食のメニューを考え、各班の買い物係をスーパーまでは私が連れて行きますが、そこからは彼ら自身が買い物籠片手にお買い物です。そして帰ってくると班ごとの夕食づくりが始まります。失敗しても（まずーい食事）、それを食べなければなりません。

そんなこんなで今に至っております。

今年のある1日、中学生以下たちで、自由な食事作りが始まりました。メニューは「ギョーザ」。ギョーザ作りで大切なのは、具もそうなのですが、キャベツから出る水分をどう除去するかにあります。もうかなり前のことですが、一時期、私もラーメン店を手伝っていたことがあり、そこでギョーザの水切りに機械を使って絞っていたのを覚えていましたので、そこはアドバイスさせていただきました。ちなみに炊飯は薪を使って私の担当。釜です。

結果、大好評の内に完食・・・。子どもたち皆、作る満足感と食べる満足感を同時に味わうことができました。

そして夜も深まったころ、誰が誰となく肩をもみ始めました。するとそれが連鎖していき、全員参加での肩もみのつながりが出来上がりました。その時私は彼らの正面で表情を見ていたのですが、後ろで揉んでいる子たちは満面の満足感の中に浸っているのですが、先頭の子の表情がどうも冴えません。一瞬ですが、どういうことなのかと戸惑いました。しかし、すぐに気がつきました。先頭の子は誰の肩も揉んではいけません。ですから後ろから揉んでいただいていることに、どう感謝したら良いのか戸惑っているのです。「えー、私だけ揉まれているだけで誰の役にも立っていない、どうしよう・・・。」といった表情なのです。

すかさず私は、「はい入れ代わりー。」と叫び、肩もみの一本のつながりは、先頭の子が背後へ、少し時間をおいて、また先頭の子が背後へというように、入れ替わりながらの肩もみになりました。

皆、人の役に立ちたがっているんだな。皆そうなんだね。感動が私の中に溢れてきました。

普段の生活の中で、人を助ける喜びを味わいながら生活できているのだろうか。人の役に立ちながら、そしてそこから「ありがとう」をいただきながら生活しているのだろうか、言葉にならない「ありがとう」だって同じこと、他人から感謝の気持ちをいただきながら生活しているのだろうか。

子どもたちは「人の役に立つ」というものに飢えているような気がしてなりません。

ある夜、花火をすることになりました。私は花火セットを子どもたちに渡し、「すぐに配れるようにほどいておいてくれる？」と、小学生たちに頼みました。あっという間に花火の束ができました。そして、花火大会ー！といっても10数人での手持ち花火大会、こぢんまりしたものです。すると、ある子が大きなマシュマロを持ってきました。いや、もらってきました。どうしたのかと尋ねると、同キャンプ場へ来ていたとなりの家族のお子さんに花火を配ってあげたら、お礼にマシュマロをもらったというのです。

私はビックリ、内輪の、この教室の子たちに配ってもらおうと頼んだことが、他の家族へも配ることだと受け取っていたその子に、こころから感動を覚えました。

そうだね、花火はみんなで楽しむものだものね。人に何かしてあげて、そして喜ばれて、ありがとうという感謝のこころをいただいて・・・あなた方こそ、立派な本物の「ひと」だよ、今年もありがとう。